学生战線

No45

社会主義学生同盟
大阪市大支部書記局発行

10/2

民学同のデッチ上げ自治会共斗を粉砕し全学連の下10 8羽田斗争を斗おう。

‖10.21市大教養ストを勝ち取れ‖

1 佐トの訪ベト―東南ア反革命支配の布石

昨日佐ト首相は東南ア五ケ国訪問を終えて帰国した。十月八日には再び、南ベトナムを含む東南ア五ケ国を訪問しようとしている。この一連の訪問の意味は史上三度目の世界再分割戦にむけての日帝の東南アに於る独自の勢力圏確保の布石である。東南アの経済危機＝政情不安に対して、経済援助（今回の三億ドル）によって経済危機解決―→民政安定を計り安定的市場圏を確保せんとするものであるが、同時にかかる日帝の進出を保証するためには、中国、ベトナム民族解放斗争に対する力の均衡を創出しなければならない。これが佐トをして南ベトナム訪問へとかりたたせる要因であり、今までの間接的な加担から、一層直接的な「民政」との直接的結合―ベトナム人民斗争を通じて東南アブルジョアジーを自己のもとに結集せんとしているのである。

2 民学同のデッチ上げ「自治会共斗」のギマン性と斗争放棄を弾劾せよ

したがって我々の斗いは、当面十、八佐ト訪ベトを実力阻止することに全力をあげることである。既に一週間前から連日の学内、街頭カンパが投げられているし文学部を中心として一回生の羽田派遣も決っている。各クラスで羽田代表派遣とカンパを行おう。しかし我々はことに十、八羽田斗争に敵対しているいわゆるデモクラットの諸君である。彼らは「自治会共斗」というあたりさわりのない幻想をまきちらして、十、八斗争に敵対しようとしている。全国のどこの大学も相手にしてくれない「自治会共斗」なるもので、九州川斗争が示したように全学連に結集する全国学友の圧伏的決起に敵対した民学同のセクト集会―斗争放棄に終らざるをえない。あので、九州川において、全学連全国反戦とそのゲート前集会に五〇名足らずの分裂集会を開き自己の惨めな姿をさらけ出したことを見い出すがよい。全国斗争と全学連に敵対し斗争の放棄をしてしか登場しえない「自治会共斗」なるものを粉砕し、唯一斗う部隊＝全学連―全国反戦の下、十、八羽田斗争を斗い抜こう。

3 10.21教養スト署名三百名突破。その波を更に拡大し教養ストを勝ち取れ。

十、八斗争の昂揚を、十、二一国際反戦デーと発展させ、十、二〇にサイゴン入りする佐ト首相に日米の連帯した反戦斗争で反ゲキせねばならない。十、二一スト署名は既に三一〇名に達した。この事実は十、二一ストを斗うエネルギーが広ハンに存在していることを示している。このエネルギーをバネに五百名署名を達成し、教養ストを勝ち取ろう。

十、二一教養ストの意義は、佐トの訪ベトに対する反戦を、日米両国の反戦デモ、ストによって形成し、日米帝国主義の後進国支配を阻止する斗いの中から、後進国人民の斗いの勝利的展望を切り拓き、後進国人民の武装斗争と先進国反戦斗争の結合を計っていくことである。この中で我々は日米人民の反戦斗争の[illegible]している[illegible]のである。[illegible]日本に於て[illegible]アジア・支配[illegible]安保に[illegible]斗い[illegible]自国政府の[illegible]非日本反戦ストを斗った自国帝国主義の植民地支配に反対の戦から一歩も出ず、[illegible]「[illegible]」[illegible]を明確にかかげ[illegible]に見ても[illegible]国[illegible]斗争の[illegible]に立たねばならない「[illegible]」全[illegible]